

現場演習・実地研修 評価表：喀痰吸引 気管カニューレ内部吸引(人工呼吸器装着者：侵襲的人工呼吸療法)

研修 受講者氏名		※各対象者の個別性に適合させるよう、適宜変更・修正してご使用ください。	A
対象者氏名			
		本票ページ数	/

実施 手順	評 価 項 目		記入例	現場演習	実 地 研 修			
	回 数		(1)回目	()回目	(1)回目	(2)回目	(3)回目	(4)回目
	月 日		1月12日	/	/	/	/	/
	時 間		15:00～15:30					
STEP4 準備	1	訪問時、第一回目の流水と石けんによる手洗いを済ませておく。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	2	医師・訪問看護の指示を確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	3	利用者本人あるいは家族に体調を聞く。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	4	気管カニューレに固定ヒモが結んである場合はほどいておき、少しコネクタをゆるめておいても良い。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
STEP5 実施	5	利用者本人から吸引の依頼を受ける。あるいは、利用者の意思を確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	6	吸引の環境、利用者の姿勢を整える。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	7	気管カニューレの周囲、固定状態およびたんの貯留を示す呼吸音の有無を観察する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	8	流水と石けんです洗い、あるいは速乾性擦式手指消毒剤です洗いをする。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	9	必要に応じきれいな使い捨て手袋をする。場合によってはセッションを持つ。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	10	吸引カテーテルを不潔にならないように取り出す。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	11	吸引カテーテルを吸引器に連結した接続管につなげる。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	12	吸引器のスイッチを入れる。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	13	(薬液浸漬法の場合) 吸引カテーテルの周囲、内腔の消毒液を取り除くため、専用の水を吸引し、周囲も洗う。吸引カテーテル先端の水を良く切る。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	14	決められた吸引圧になっていることを確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	15	吸引カテーテルの先端の水をよく切る。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	16	「吸引しますよ～」と声をかける。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	17	人工呼吸器から空気が送り込まれ、胸が盛り上がるのを確認後、フレキシブルチューブのコネクタを気管カニューレからはずし、フレキシブルチューブをきれいなタオル等の上に置く。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	18	手袋をつけた手(またはセッション)で吸引カテーテルを気管カニューレ内(約10cm)に入れる。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	19	カテーテルを左右に回し、ゆっくり引き抜きながら、15秒以内で吸引をする。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	20	吸引を終了したら、すぐにコネクタを気管カニューレに接続する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	21	一回で吸引しきれなかった場合は、吸引カテーテルの外側をアルコール綿で拭き取った後、洗浄水を吸って内側を洗い流してから、再度吸引する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	22	(薬液浸漬法の場合) 使用済み吸引カテーテルは外側をアルコール綿で拭き取った後、水を吸って内側を洗い流してから、保存容器の消毒液を吸引カテーテル内に吸引する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	23	吸引器のスイッチを切る。(吸引終了)	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	24	吸引カテーテルを連結管からはずし、破棄する。 (薬液浸漬法の場合) 消毒液の入った保存容器にもどす。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	25	手袋をはずす(手袋着用の場合)またはセッションをもとに戻す。手洗いをする。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	26	利用者に吸引が終わったことを告げ、確認できる場合、たんがとれたかを確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	27	利用者の顔色、呼吸状態等を観察する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	28	人工呼吸器が正常に作動していること、気道内圧、酸素飽和度等をチェックする。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	29	体位を整える	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	30	吸引した物の量、性状等について、ふり返し確認する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
STEP6 結果確認 報告	31	吸引びんの廃液量が70～80%になる前に廃液を捨てる。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
	32	洗浄用の水や保存容器の消毒液の残りが少なければ取り換える。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
STEP7 記録 報告	33	実施記録を書く。 ヒヤリ・ハットがあれば、業務の後に記録する。	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ	ア・イ・ウ
アの個数 計			33					
評価者(指導看護師)サイン			大阪					

* 自由記載欄

()回目	
()回目	
()回目	
()回目	

※【現場演習】は全項目が「ア」になるまで、一連の流れを確認してください

※【実地研修】は2回連続で、全項目が「ア」にならないと修了となりませんので、ご注意ください。